

# リンドウの中生品種「ふくしましおん」、 中晩生品種「ふくしまほのか」に適した追肥時期

福島県農業総合センター 作物園芸部花き科

部門名 花きーリンドウー施肥法、生育調節

担当者 矢島 豊・宗方宏之・山口繁雄

## I 新技術の解説

### 1 要旨

8月中旬より遅く開花するリンドウ品種は一般的に草勢が強く、その特性が顕著な「ふくしましおん」と「ふくしまほのか」は、従来の萌芽期追肥では初期生育が過剰になり、切り花の品質低下を招く場合があった。そこで、窒素の追肥時期による生育量の変化を検証し、品質の高い切り花が得られる追肥方法を明らかにした。

- (1) 萌芽期から側芽発生期にかけての窒素肥効の増大により花段数が増加する傾向が認められたため、基本的に萌芽期の窒素追肥は行わない(表1)。
- (2) 出蕾期以降の窒素肥効の低下は花卉の肥大を抑制する傾向が認められたため、出蕾期までに最初の窒素追肥を行う必要がある(表1)。
- (3) 追肥時期として側芽発生期が適しており、「りんどう・トルコききょう専用肥料 α 有機S826V」等の緩効性肥料を施用することで省力的に品質の高い切り花が生産できる(表1、写真1、「ふくしましおん」はデータ省略)。

### 2 期待される効果

- (1) 過剰な花段の減少等により外観のバランスが改善され、上位等級の増加が期待される。
- (2) 除去対象となる花段や側枝の減少により、切り花調整作業の負荷軽減が期待される。

### 3 適用範囲

「ふくしましおん」、「ふくしまほのか」を栽培する産地、生産者

### 4 普及上の留意点

- (1) 側芽発生期は、50%の茎の上位節に側芽が確認された時期である(写真2)。確認時期の目安は、概ね5月下旬～6月中旬、節数16～20節の時期となる(写真3)。
- (2) 開花期までの施肥量は、窒素成分で6kg/10a程度が適当と推定されるが、栽培地域ごとに土質等の条件を勘案して決定する。
- (3) 気温が高い、降水量が多い等の条件下では、肥効が強まり想定以上に生育量が増加する可能性があるので留意する。

## II 具体的データ等

表1 切り花品質（ふくしまほのか、2010年）

試験区	切り花長 (cm)	花段数 (段)	花弁長 (cm)
緩効性 <sup>1)</sup> (萌芽期)	104.8 b	9.2 bc	4.9 a
<b>緩効性(側芽発生期)</b>	<b>100.0 a</b>	<b>7.8 a</b>	<b>5.1 b</b>
速効性N <sup>2)</sup> 4-2-0	102.1 ab	9.1 bc	5.0 ab
速効性N 2-2-2	106.1 b	9.3 c	5.2 c
速効性N 2-0-4	99.3 a	8.5 ab	5.3 c
速効性N 0-2-4	104.5 b	8.3 a	5.3 c

※Tukeyの多重比較法により、同符号間に5%水準で有意差なし。

1) 緩効性肥料：りんどう・トルコキキョウ専用肥料α有機S826V  
( ) 内は施肥時期。

2) 速効性窒素の施肥時期：萌芽期-側芽発生期-出蕾期(kg/10a)

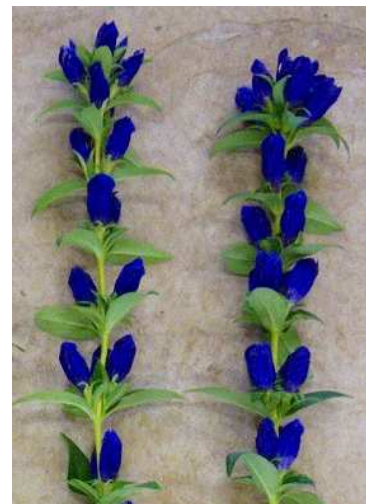


写真1 花段部の比較

(「ふくしまほのか」、2010年、左：緩効性(萌芽期)区、右：緩効性(側芽発生期)区)



写真2 側芽の発生状況



写真3 側芽発生期頃における生育状況の一例

(5月下旬~6月中旬、節数16~20節)

## III その他

### 1 執筆者

矢島 豊

### 2 研究課題名

県オリジナル花きの高品質・安定生産技術の確立

### 3 主な参考文献・資料

(1) 平成19年度~22年度福島県農業総合センター試験成績概要(2007~2010)